俺が理想の主人公 -魔術と科学編-

ふぉんふぉん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
俺が理想の主人公　－魔術と科学編－

【Ｎコード】
Ｎ９２４７Ｚ

【作者名】
ふぉんふぉん

【あらすじ】
他人を庇ってテンプレ的に死んでしまった主人公が、テンプレ的に神っぽいやつに会って、テンプレ的に転生、憑依、などするお話。
転成、憑依するにあたって主人公は力をもらった。
そしてもらった力とともに様々な世界を生きていく物語。

※当作品はその第一世界です。

プロローグ

「やっとここまで来たか。いや～長かった、ホントーに長かった。はぁ…」

その少年はそんな言葉とともに溜め息を吐いた。
溜め息はいままでの苦労を語るかのように深く、重いものであった。

「でも、ようやく始まるんだよな。」

そのように独り言をつぶやく少年がいるのは「学園都市」と呼ばれる場所である。
「学園都市」とは人口東京西部に位置し、東京都のほか神奈川県・埼玉県・山梨県に跨る完全な円形の都市。
総面積は東京都の約3分の1に相当する巨大都市で、総人口は約２３０万人。
そしてその8割は学生によって構成されている。
外周は高さ5ｍ・厚さ3ｍの壁に囲まれ、完全に外部と隔離されている。
そしてここの学園都市において学生たちが行っているのは、能力開発である。

「ここでどんなふうにやっていこうかな。並行世界というからにはあいつに言われたとおりに違いはあるんだろうけど…まあ、そんなことは今はいいか。」

少年からつぶやかれた「並行世界」という単語が、この少年が普通でないことを物語っている。

「それにあいつもいってたしな、楽しんで欲しいって…」

あいつというのもどこか遠い所にいる人物というよりは、もっと別の何かを感じさせるような口ぶりであった。

「…まあ、こんなことごちゃごちゃ考えてたら楽しめるものも楽しめないよな。やっぱ自分が思うままに過ごさないとな…。」

そうつぶやくと少年は学園都市の町を歩き始めた。

その表情にはこれからへ期待のためか、満面の笑みであった。

この少年、旧名、日野井（ひのい）　慶（けい）は新しい道を進み出した。

これからの未来に胸踊らせながら…上条当麻として。

プロローグ（後書き）

初めまして、ふぉんふぉんと申します。
いままでは作品を見る側だったのですが、今回、自分の作品を投稿させていただきました。こんな駄文でも楽しんでいただけたら幸いです。

さて、今回はプロローグということで結構短めにいたしました。
ですがこれはこの作品の導入ということで主人公がこのようになったあらすじを次回、プロローグ2という形で投稿したいとをもいます。
このあとの続くもなるべく早く投稿いたしますので今後とも宜しくお願いします。

プロローグ2

ｓｉｄｅ：当麻（慶）

やあ皆さんどうも。わたくしは旧名、日野井（日野井）　慶（けい）こと現在は上条当麻と申します。

自分この世界に来てから１５年、ようやく学園都市に来ることができたわけです。

これまでのことを思い返してみると、いろいろ苦労したな～と思います。

なにがあったかと言いますと右手が原因で発生する不幸の数々。

同年代のやつからはいじめのような物を受け、その親たちからも軽蔑の視線を受け、その他にも数えきれないほどの嫌がらせを…という具合に本当にろくなことがなかった。

だかそれもここに来たことで無くなる。なぜならこの学園都市は異常（アブノーマル）こそ普通（ノーマル）だからだ。

アブノーマル万歳！！！最高？？……

……調子こいてすんませんでした。

さて、そんなことはとりあえず一旦　ＳＯ・ＧＥ・ＢＵ　しておいきましょう。

ところで、画面の前の皆様にはなぜわたくしが上条当麻になっているか説明してませんでした。

サーセン。

というわけでここで一度、回想をした方がいいんじゃなかろうかと思います。

え？そんなのめんどくさい？プロローグ二回もやってんじゃねーって？

ハッ、いいぜ、お前らが回想も見ずに本編を読もうってゆーなら、

まずは、その幻想をぶち殺す！！！！！

はい、つーわけで回想です…

…

…

…

…

「…あれ、ここどこだ？」

俺が気がつくとそこはどうにも見覚えのない場所だった。
周りを見渡しても白一色。上下前後左右、すべてが真っ白。

というか、こんなとこに見覚えのあるやつなんかいないんじゃないかとすら考えてしまうほどだ。

「でもなんでこんなとこにいるんだ？」

それが疑問だった。
だからここで自分の最後の記憶をおもいかえしてみると…

…？そうだった！俺は確か工事現場の近くを歩いていて、そしたら突然上からガシャン？という大きな物音とともに鉄骨の雨が降ってきたんだ！

でもそれは俺に当たる軌道じゃなくて俺の前方にいる女性に当たりそうだったんだ。

そして、危ない？って思った時にはもう体が動いていた。

俺は女性を突き飛ばし、代わりに自分が鉄骨の下敷きになった…はず？

でも俺には意識があるし助かったのか？

仮に助かったとしたらここは…

「…病院、なのか？」

いやそんな分けないと思い直す。

普通に考えて鉄骨に下敷きにされて生きてる訳がない。ほぼ確実にだ。

だがそれだと自分に意識がある説明がつかない。それじゃあ何だ？と思っていると…

「お主はあのまま死んでたよ」

声が聞こえた。

それと同時に、ああ、このパターンはもしかして、とも思った。

声が聞こえた方向に振り返ると、俺の予想を肯定するかのようにいかにも神って感じの爺さんと女神って感じの美人がいた。

「あんた、神ってやつか？」

「うむ、因みに名前はゼウスという」

「ふぅん、んじゃあその神様がこの場所に俺を連れてきたんだろ

？俺に何のようだ？」

「お主にはな、転生をしてもらおうとおもってな。」

やっぱりこうなるか。

というか死んで、訳のわからないところにいて、神っぽいやつに会ったら転生だよな。

テンプレだなテンプレ。

「でも何で俺なんだ？他にも人間なんかいろいろいるだろ？」

「それについてはな、お主はあの時に近くに居たやつを庇って死んだじゃろ？
んでそやつがたまたまいろいろと調査のために下界に行っていた神だったのじゃよ。
神じゃったら別に鉄骨に下敷きになる程度じゃ死にゃせんのじゃが、そのままじゃとちと不憫に思っての、転生させてやろうということになったのじゃよ。」

ってことは俺はあれか、無・駄・死・にってやつか？
うわ～ないわ～ｏｒｚ

「あ、あの…」

俺が思わずｏｒｚになっていると声がかけられる。
そちらの方を地に手をついたままに見上げると神と一緒にいた女神っぽい人だった。
というかよく見てみると何処となく俺が庇った神ってやつに似て

なくもない気が…

「あの、私の不注意のせいであなたを死なせてしまってすいませんでした！」

どうやら本人だったらしい。

「…まあ、しょうがないですよ。起こってしまったことはもうどうしようもないですし気にしなくていいですよ。」

「えと…怒ってないんですか？」

「別に怒ってないですよ。
それに女性を庇って死ぬなんておれにとってある意味に本望みたいなもんですから。
だからそんな悲しそうな顔しないでください。
あんたは美人なんだから笑ってた方がいいですよ。（ニコ」

そして言葉とともに頭を優しく撫でてやる

「っっ！／／／はいっ／／／あ、私の名前はアテネっていきます／／」

俺の言ったことに満面の笑みとともに返事を返してくれたアテネ。
たださっきと違い顔を赤らめているのはなんでだ？

「…これがニコポ、ナデポ、鈍感、天然というやつか…」

「なんか言ったか？神さん」

「いや、なにも」

神がなんか言ったような気がしたが小さくて聞き取れなかった。

なんだったんだ？

「さて、では話もついたようじゃしそろそろ本題に入るとするかの。お主が転生するのは漫画やアニメの世界となるのじゃがあくまで平行世界じゃ。なにかイレギュラーな事態が起こるやもしれん。そこでこちらからもそれに対抗するための力なんかを授けよう。お主に授けるのは、まあ、仮に名前を付けるとしたら『あらゆる事を極める程度の能力』じゃな。これは主に強化と可能性に満ちた能力でな、思考錯誤する事によってアニメなんかの技も使えるようになったりもできる。あとこの能力により限界がなくなり極め続ける事も可能じゃ。」

わーい、それなんてチート？

ぶっちゃけ強すぎね？もうこれで十分だろ。

…でもどうせだったら俺がもらいたかった物がもらえたらよかったな。

俺だっていままで生きて来てこういう展開を夢見た事なんていくらでもある。

だから自分の考えた力をもらいたかった。

「んーそうか、なら一つだけお主の考えたものを現実としてやろう。」

「あれ？こころ読まれた？いやそれよりも現実にしてやろうって、マジで！よっしゃー？神テラ太っ腹！」

いやーめちゃくちゃ嬉すぃーです！
とするとどの能力にしようかな～迷っちゃうけど…よし、アレにしよう。

「俺が望むのは名前を付けるなら
『理想の主人公設定で転生する程度の能力』だ。
まあ、説明すると転生、憑依するに当たって理想の設定を着ける事ができる。
例えば、ど〇えもんののび〇くんに転生するとしよう。の〇太くんがバカなのはみんなの知ってるとおりだろう。
そこでこの能力の出番だ、もし俺がの〇太くんが天才だったら？と考えた設定があるとしよう。
そして俺がこの能力をもっての〇太くんに転生したら、考えたとおりに天才になっているというわけだ。」

はいチートです自重はしませんサーセン。

「あいわかった。それじゃ能力を付加しよう。ぶるぁぁぁあ？」

とそんな若本的な掛け声とともに俺の中で何かが変わったような気がした。

テテテテーン！
というなんかＬｖが上がったようなＢＧＭとともに『慶は能力を手に入れた』というのが頭に浮かんだ。
当然スルーである。

「これで能力は与えたぞ。では早速平行世界へ送ｒ「あ！ちょっとまって？」…なんじゃ？」

「行く前にあんたからもらった能力でどの程度のできるか試したいのと研究がしたいんだけど、問題ない？
向こうに送られてからだと試す機会がなかなかなさそうだし、何より見つかったらややこしい事になりそうだから…」

「…それもそうじゃな。そういう事ならわかった。それじゃあアテネ、めんどうを見てやってくれ。私は戻る。お主も次の世界、楽しんでくれ。」

「はい！よろこんで！よろしくお願いしますね、慶さん。」

「ああ、よろしく。」

…
…
…
…

…回想終了！
いや～長い回想だった。
まあ、そんな経緯があって今の俺があるわけなんですよ。
そしてアテネとても良くめんどうを見てくれた。
ホントに2人には感謝感謝だ。

ただ、アテネがこちらを頬を赤らめてなにも考えてなさそうな目で度々見てくるから、なんなんだ？とは思ったけど。

まあそれはおいといて、研究を終えてコッチに来た時は本当に苦

労したよ。
自我のある俺に対して母乳とかオムツとかマジで恥辱以外の何ものでもなかったよホントに。
そしてだんだん慣れていく自分が怖かった。
人間の適応能力とは恐ろしいものだ。

まあ、そんなわけで上条当麻に転生してからようやく１５年、やっと学園都市デビューを果たしましたわけです。

これから厄介事に巻き込まれる訳だが、
ＡＬＬ　ＨＡＰＰＹ　ＥＮＤ？

これを目標に日野井　慶、改め上条当麻はそげぶしまくる！

さて、まずはトキワに生息するＬｅｖｅｌ５の電気ネズミをゲットしにいこうかな？

そんなわけで、じゃあな

プロローグ2（後書き）

プロローグ2少し遅くなってしまいました。すいません。
今回は書く事が多くてやや適当になってしまったかもしれません。

さて、次回は主人公設定かな？と思っております。
次回もよろしくお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9247z/

俺が理想の主人公 -魔術と科学編-

2011年12月29日12時45分発行